

子くらべや○尊子、以上女御、なまゐりこませ給たり、されどさるべきみこたちもいでおはしまさ
で、中ぐうのみこそはかくみこたちあまだおはしますめれ、この御かた子○彰ふぢつぼにおはしま
ますに、御おつらひもたまもすこしみがきたるは、ひかりのせかなるやうにもあり、これはてり
かゞやきて、にようばうもせうくの人の御前のかたにまゐりつかうまつるべきやうもみえ
す、いといみおうあさましうさまことなるまでおつらはせ給へり、御几帳御屏風のおそひまで
みな蒔繪螺鈿をせさせ給へり、にようばうはおなじきおほうみのすりも、おりものゝからぎぬ
なぞ、むかしよりいまにおなじやうなれど、これはいかにおたるとまでぞみえたる、にようび○彰
子のはかなうたてまつりたる、御ぞのいろかをりなぞよにめでたきためしにおつべき、御と
のるおきりなり、よき日して御めのとゞも命ぶくら人陣の吉上衛士仕丁までおくりものを給
はすれば、としおいたる女官としなぞ世にいひおらぬまで御いのりを申いのりたてまつる、御
めのとたちさへきぬあやおりものゝおやぞくをもかずおほくかさねさせ給て、ころもばこ
につゝませ給て、さまくのものともそへさせ給へり、

〔榮花物語十四〕二月○寛仁になりぬれば、おほとのゝ尙侍殿長女○藤原道内○後
づのこととゞのへさせ給へり、おとな四十人、わらは六人、おもづかへおなじかすなり、はじめの
みやく○一條后彰子、攝政殿なぞにみな人々まゐりて、いまはえしもとおぼしめしつれど、い
づれもはぢなき人々おほくまゐりこみたり、わらは、そのよくるまよするまでえりとゝのへ
させ給へるおしはかるべし、ふたみやの御まゐりのをりのこととぞ、よがたりに人々きこえさ
しめるを、これはいますこしまさりたり、世中の人の御おきてきのふにけふはまさりてのみみ
ゆるわざなれば、よろづそれにおたがひてめでたし、みかゞ時歲十一、の御ありさまよりは、かん
のとの歲二十、時歲十一、によくおとなびさせ給へり、御かたちいみじうおかしげにわいぎやうづき、